

「明日の元気」をつなぐ、みんなの居場所

認知症カフェ「ガーデンカフェ」福山市

認知症の人やその家族、地域住民、医療や介護の専門職らが憩う「認知症カフェ」。地域に根付き始めている福山市新市町の「ガーデンカフェ」を訪ねた。

社会福祉法人「新市福祉会」の多世代交流施設の中にあるフレンチレストランで月1回開かれる「ガーデンカフェ」は、同市第1号の「認知症カフェ」。大小4つのテーブルを囲んで、おしゃべりに花が咲く。写真を見せる人、ゆったりと座って話に耳を傾ける人……どこにでもあるカフェの一コマだ。

「飲み物は何にしましょうか」と声を掛けるのは、このレストランで働く障害のある人たち。注文を受けてキッチンで働くのは福山平成大学の学生。参加者は誰でもOK。認知症や障害のある人もいれば、在宅介護をする家族も、医師や看護師、介護福祉士、理学療法士も。時には子供もやってくる。

◎ 誰でも、どこに住んでいても参加は自由

参加費は100円。介護保険には関係なく、介護している家族でなくても、関心のある人は誰でも、どこに住んでいても参加できる。「予約制という違いはあるけど、カフェですからね。介護する人、される人ではなく、誰もが対等な関係。私たちスタッフもみんな同じなんですよ」と語るのは「新市福祉会」と一緒にこのカフェを実現させた福山平成大学教授の中司登志美さん。

予約を受けて、スタッフであらかじめミーティングをしてニーズに合わせてテーブルを分け、各席にそれぞれの専門家を配置する。相談もできるし、対処の方法や手続きのアドバイスも連携がうまくとれるからだ。

◎ 安心して話せ、気持ちが楽になる

カフェの持つ緩やかな感じがいい。何よりも、話を聞いてもらうだけでストレス解消になるという。「安心して話せる」「心が軽くなった」と参加者は口々に。「抱え込まずに、自分をさらけだして、しんどいこと、うれしかったことを声に出すことが明日への元気につながるんです。私たちも仕事の時には聞けない話ばかりで、勉強になります」と介護福祉士の堀直子さん。

悩みを打ち明けたり、思い出を話したり、手作りおやつ差し入れ、自慢のギターやハーモニカの披露などもあって、ゆっくりと笑顔の輪が広がっていく。「家族を支え、認知症になっても大丈夫！地域で暮らしていける。「ここがある」と思っていたきたいんです」と中司さんは力を込めた。



◇ ガーデンカフェ
事務局 / ガーデンテラス
福山市新市町新市56-2 ☎0847-54-2220

1「毎回楽しみなんよ」と話す参加者 2「ガーデンカフェ」。つらいこともしんどいことも、ここなら話せる 3会場となる「TwoMoon'sKitchen」はカフェにぴったり。時には庭での開催も 4理学療法士による運動の指導も笑い声に包まれて 5・6ハーモニカを披露する寺岡洋子さんと音頭を取る木村孝江さんはともに80代 7喫茶担当は大学生 8中司さん

